日米共同訓練やめよ

日出生台で一万六千人が決起集会

大分県日出生台（湯布院、九重、玖珠）は雄大な草原で、自然の良さがあり、そこに立てば、自然を守り、大切にしなければという気持になる。

この日出生台の広大な演習場で十一月十一日から十五日間、日米の兵員二千人、車両約三百両、迫撃砲二十二門、榴弾砲十三門、さらに戦車、航空自衛隊と米空軍、海兵隊の戦闘機が参加する大規模な日米軍事訓練が実施される。

東西の冷戦構造が崩れ、軍縮の方向へと向かっているなかで、政府・自民党は軍事費の増強、自衛隊の海外派兵など、世界の動きに逆行する軍事大国化路線をおし進めている。

九州各県評センターでは十一月十日、大分県玖珠町の玖珠河原で、新たな平和運動のうねりをつくるために、一万六千人が結集して「日出生台、日米軍事演習反対総決起集会」を開き、人間の鎖や、ニュースカーで演習場をとり囲み「アジアの緊張を高める演習は中止せよ」と、一大行動を展開した。

なお、三池労組からはニュースカーで六人が参加した。

（組織部長　芳川　勝）

日出生台演習場は、旧日本軍が使用していたが戦後米軍の演習場となり、1957年に返還。62年に自衛隊の全面所管となり、西部方面隊のほか、大演習場を持たない中部方面隊も使用している。面積は、4,916ヘクタール。実弾射撃では6キロの射程がとれる。

協定改定に向けてたたかいを準備

被災者の会代表が決意表明

一九六三年十一月九日、三池炭鉱三川鉱において発生した炭じん大爆発によって、四百五十八名の労働者の生命が奪われ、八百三十九名ものCO患者を出した、戦後最大の炭鉱災害から二十八周年を迎えます。

この大災害は、炭じんの清掃、散水、岩粉散布という、極めて初歩的な対策で防止できたもので、三井資本の保安サボの責任は、永久に消し去ることはできません。

一家の大黒柱を失った遺族の悲しみと苦しみや、脳細胞を狂わされたCO患者の口惜しさと不安は、二十六年を経過した現在も続き、大災害の爪あとはいまなお深刻さを増して残っています。

三池炭鉱では三年続きの合理化によって、三千人以上の労働者が退職をよぎなくされ、残された者も、配置転換や出向、労働強化と保安の軽視など、厳しい労働条件といつ大災害が繰り返されるかわからない、大きな不安と危険のもとで働いていました。

そして本年六月、国内炭の総撤退を中心として第九次の石炭政策の答申が決定され、三池炭鉱の存続さえ危うい状況となってきました。『合理化は災害を招く』というのが、炭鉱災害の貴重な教訓です。遺族とよばれるのは、もう、私たちだけでたくさんです。なによりも保安の確保と、安心して働ける石炭政策を要求して、さらにたたかいを強化する必要があると思います。

また来年三月には、三年ごとのCO遺族協定の改定交渉が予定されています。大災害の責任追及を中心に、遺族とCO患者の切実な要求を集約し、いまからたたかいを準備していく必要があります。

私たちは、遺族とCO患者の生活補償と完全治療を強く要求し、三年前の合理化によって、不当にも首を切られた仲間の『解雇撤回裁判』の勝利をめざして、さらにたたかいを強化していく決意です。

今後とも、さらに力強いご指導とご支援をお願い致します。

一九九一年十一月九日

三池大災害被災者の会
会長　小川　紘志

ドンコ船連ねて「川下り」を楽しむ

好天に恵まれた統一行事

十月二十七日、三池労組の統一行事が催され「からたちの花」をはじめ、多くの名作を残してくれた詩人・北原白秋のふるさと水郷「柳川」の川下りを、総勢百十四人が十三艘のドンコ舟にゆられて約一時間の行程を楽しんだ。

川下りのあと「柳川ホテル」で懇親会が開かれた。

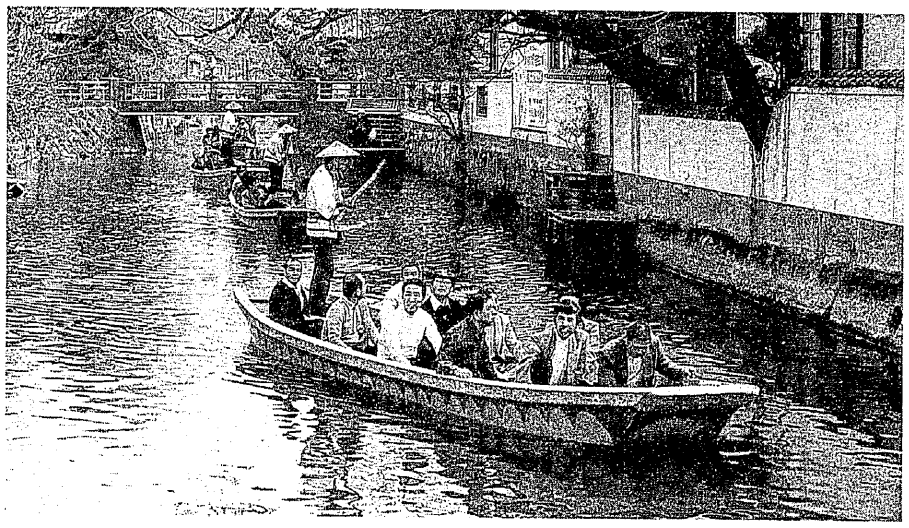
例年、統一行事から次の統一行事までの間に退職された人は、奥さん同伴で招待されている。今年は、九月に強烈な台風十七号と十九号が相次いで襲来したために、雨も降らず、事故もなく終わることができたことに感謝するとともに、また来年の統一行事にも参加できるよう頑張っていかなければと思ったものです。

（柳川を愛するK生。三分会職場新聞『やま』十一月七日付から）

×　＋

この日の懇親会では中原組合長があいさつ。来賓を代表して酒井熊本県議、森田退職者の会事務局長らがあいさつ。また、表彰者を代表して古沢さんがお礼のあいさつを述べました。

この日表彰された1年間の退職者のみなさん



絶好の日和に恵まれた、水郷「柳川」の川下り

時の問題

臨時国会の焦点
――リ汚染を免責――
コメ、PKO、金権で対立必至

第百二十二臨時国会が十一月五日召集されました。会期は十二月十日までの三十六日間で、国連平和維持活動（PKO）協力法案やコメの市場開放問題が焦点となります。同日発足した宮沢内閣は首相を含めリクルート汚染議員を四人も抱えており、野党は新内閣の政治倫理を厳しく追及する構えです。

コメ自由化

ガットのウルグアイ・ラウンド（新多角的貿易交渉）の農業交渉では、コメも含めて関税化の方向が打ち出されようとしています。関税は輸入貨物に租税を課すもの。輸入自体は認める立場であり、「コメの完全自由化につながる」として、社会、共産、民社の三党は政府・自民党に自由化阻止を貫くよう迫る構えです。一方、公明党は部分輸入化を主張してきましたが、関税化については態度を留保しています。

PKO法案

前国会で継続審議となったPKO法案について自民党は「成立に全力をあげる」考えです。これに対し社会、共産両党は廃案を求めていますが、公明、民社はシビリアンコントロールの確保を前提に法案成立に協力する意向。公明党は「平和維持隊（PKO）参加五原則の法制化など歯止めがあり、国会報告で十分」としているのに対し、民社党は「国会承認が不可欠」と、国会の関与の仕方で相違点もあります。

紛争地での兵力引き離しなど自衛隊による軍事活動を認める今回のPKO法案。武力による紛争解決を禁じた憲法に反しないか、が改めて論点となります。

政治倫理

宮沢首相自身がリクルート議員ですが、自民党三役にもカモメ印の森喜朗政調会長、ロッキード事件で有罪となった佐藤孝行総務会長が生まれました。党最高顧問にはリ印の竹下、中曽根両元首相が就任。内閣も、渡辺美智雄外相・副総理、加藤紘一内閣官房長官、渡辺秀央郵政大臣らカモメ印が〝復権〟しています。宮沢首相を据えたことで、リ・ロ事件免責体制ができたといえます。閣僚・党三役の派閥離脱も不十分で、政治倫理確立に向けた姿勢さえ投げ捨てているのが特徴です。

敬弔

大畠寛義さん（十一・九大災害患者・七十五歳）十一月八日永眠されました。住所は大牟田市天道町一〇二の二。

吉田義彦さん（十一・九大災害患者・六十三歳）住所は緑ケ丘楓町三十六棟。

お二人に心から哀悼の意を捧げご冥福をお祈り致します。